

# Topics

県社協からのお知らせ  
＜トピックス＞

## 宮城県社会福祉協議会創設60周年記念 第58回宮城県社会福祉大会が開催されました

11月7日、第58回宮城県社会福祉大会が開催され、約1070人が参加しました。社会福祉関係者が一堂に会し、第一部では永年の功績を称え385人105団体が表彰され、第二部では「若さを保つ健康法—西野流呼吸法—」と題し、女優の由美かおるさんの記念講演が行われました。今年は宮城県社会福祉協議会創設60周年という節目の年にあたり、改めて今日の社会の動向や課題を見つめ直すとともに、いま一度、豊かな社会福祉の実現には何が必要かということをも再認識する大会となりました。



## 和風園「手芸クラブ」 交通安全お守りをいただきました

特別養護老人ホーム和風園の利用者さんから、交通安全を願い、丹精を込めて手作りされたお守りをいただきました。ピンク・黄色・緑などの色とりどりのフクロウさん。交通事故ゼロを目指し大切に使用させていただきます。



## 宮城いきいき学園平成25年度入学生募集

宮城いきいき学園では平成25年度の入学生を募集しています。

対象者／県内在住のおおむね60歳以上の方  
学習期間／年間22回程度の2学年制  
場所／仙南校、大崎校、石巻校、気仙沼・本吉校、登米・栗原校  
募集人員／各校40人  
募集期間／平成24年11月1日から平成25年1月31日(必着)  
申込書は、各市町村の福祉担当課や生涯学習担当課、本会ホームページ(<http://www.miyagi-sfk.net/jigyosho/ikiiki.html>)で入手できます。

## たくさんの真心ありがとうございます

下記の方々から本会に寄付金・支援金をいただきました。本当にありがとうございました。(平成24年10月末現在)  
平成24年9月24日 チャールズ・ハリス様より精神障害者の支援のために・・・10,000円  
平成24年9月28日 NPOモバイル・コミュニケーション・ファンド様より社会福祉事業の進展に資するために・・・500,000円  
平成24年10月5日 氏家幸子様より法人のために・・・60,000円  
**東日本大震災に関する支援金**  
平成24年8月21日 桑原サロンことぶき様より・・・30,000円  
平成24年9月4日 (株)ブリッジ様より・・・67,873円  
平成24年9月25日 那珂市赤十字奉仕団様より・・・30,000円  
平成24年10月2日 (株)ブリッジ様より・・・60,126円  
皆さまからお寄せいただいた支援金は東日本大震災による復興支援のために活用させていただきます。

## 職員募集のお知らせ

本会が運営する施設に勤務する職員を募集しています。  
○正規職員 ・ 看護師  
○臨時職員 ・ 看護師または准看護師  
・ 介護支援などを行う生活支援ワーカー補助員  
詳しくは、本会ホームページをご覧ください。  
■宮城県社会福祉協議会ホームページ  
URL/<http://www.miyagi-sfk.net/main/saiyou.html>

## 宮城県内の福祉施設・介護事業者向けの総合補償制度

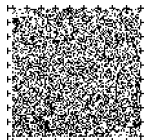
# 宮城県地域福祉総合補償制度をご利用下さい

- ポイント1** 社会福祉協議会の会員である社会福祉施設、介護サービス事業者が加入できます。
- ポイント2** 地元宮城県で加入手続き・事故対応・その他アフターフォローを行いますので安心です。
- ポイント3** 団体制度のため、有利な団体割引が適用されます。(一部適用外)

ご不明の点はお問合せください!



※この制度の各補償は宮城県社会福祉協議会が保険会社と締結した保険約款により行います。



お問い合わせ  
みやぎボランティア総合センター  
三井住友海上火災保険株式会社  
(株)オンワード・マエノ

TEL022(222)0010  
TEL022(221)3171  
TEL022(762)9915

みやぎ

# ボラセン 通信

みやぎボランティア総合センターからボランティア活動、さまざまな活動、さまざまな情報を発信します。

## 信頼される企業を目指して

ボランティア活動・リスク管理の取り組みについて

株式会社ケーヒンはBCM(事業継続管理)推進室を設置し、防災や減災対策、危機管理について先駆的に取り組むとともに、東日本大震災後は、ボランティア活動を積極的に取り組んでいます。この取り組みについてBCM推進室の太田さんにお話を伺いました。

## 地域の力になりたい

震災後、ケーヒンでは瓦礫撤去や環境整備、炊き出しなど、社員が被災地でボランティア活動を行いました。



▲一日も早い復旧復興を願い、泥まみれ・汗まみれで奮闘しました

「活動の際、企業としてルールをつくりました。一つは弁当持参で活動を行うこと。全国各地からボランティアに駆けつける方たちと、同じ姿勢でボランティア活動に取り組みたかったからです。もう一つは企業名を大きく宣伝しないこと。震災直後の混乱の中で、被災者の方に、企業の宣伝に来てるのか?と思わせ、感情を傷つけてしまうことのないようにしたかったのです。」  
太田さんは当時を振り返り話してくださいました。全国から来たボランティア活動を行う仲間や被災した方への配慮は、人の思いを親身になって感じているからこそ生まれるものではないでしょうか。現在も海岸の清掃やイベントの開催など、地域の方と連携しながらボランティア活動に取り組んでいます。

## 安定した事業継続に向けて

「地域の力になりたい」という思いの源には、平成18年から防災リスクの除去、軽減、分散への整備を進め、平成19年に導入したBCP(事業継続計画)の策定がきっかけとなっています。同社は「人命確保、事業継続、社会貢献」に向け、BCPに基づいた棚やロッカーの固定、建物の補強、部門・拠点ごとのマニュアル作成など、普段からの備えを積み重ねてきました。  
震災後は工場の復旧・稼働を第一に掲げ、「被災従業員支援プログラム」に基づいた「仮住まいの支援」「従業員融資基準の緩和」など8項目にわたる支援やメンタルカウンセリングなどを実施しました。  
「企業はどんな災害や事故があっても」



▲炊き出しの様子～帽子には「がんばろう日本」の文字

## 人を守り、未来を守る

同社の基本理念は「人間尊重」。この理念は2万人近い全世界の社員が共有しています。今回の震災では国内だけでなく海外のグループ会社からも、被災地へ向け自発的に支援物資が届けられました。「人を大切にし、誠実に行動する。企業としての理念に基づき、未来を見据えて行動することが、結果的に社会への貢献につながる」と太田さん。  
地域に根ざし、地域に貢献する企業の実践は安心・安全な町づくりへとつながるのではないのでしょうか。

BCM: ビジネスコンティニュイティ・マネジメント(Business Continuity Management) 事業継続管理  
自然災害や事故に備え、リスクや損害を最小限に食い止めるための事業継続計画(BCP)に基づき教育訓練を実施したり、定期的に見直し、改善をする継続的・総合的なマネジメント。

